



(6)建設業の担い手確保

～地域に必要とされ未来に存続する建設業～

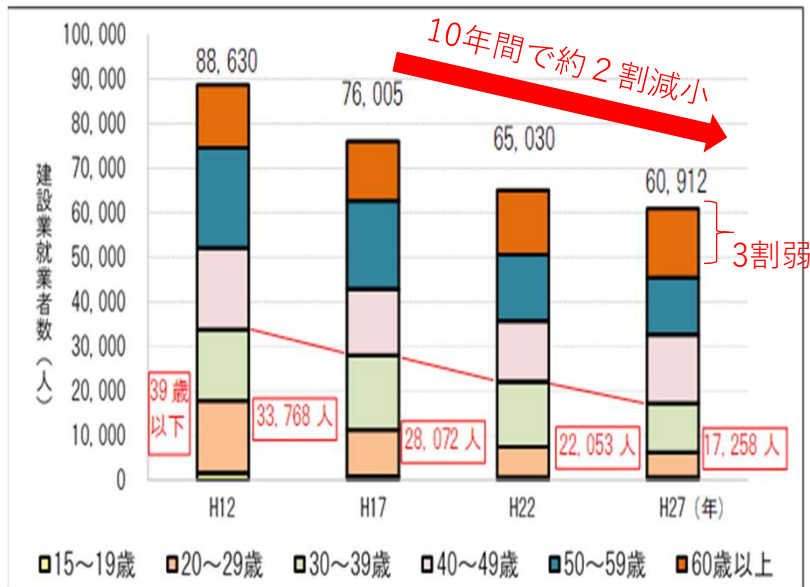
建設業の担い手確保について

少子高齢化によって生産労働人口が減少していく中、建設業の担い手を確保するには、**求人活動**の促進はもとより、建設業の**労働環境改善**（特に若者や女性が活躍しやすい環境整備）、建設現場の**生産性向上**などの働き方改革が急務となっている。

現状

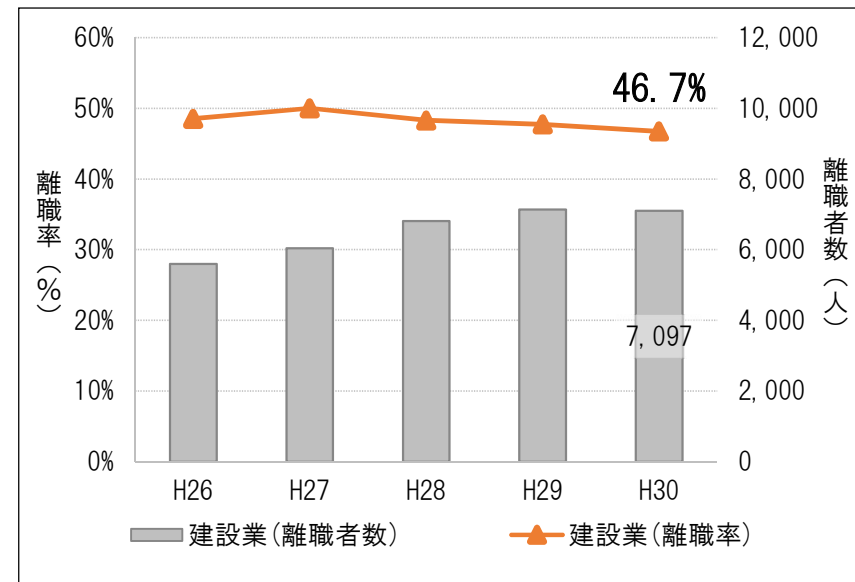
- 県内建設就業人口の減少が深刻（若者の建設業離れと就業者の高齢化）
- 60歳以上**の建設従事者は全体の**3割弱**を占めており、10年後にはその大半が引退することが見込まれる。
- 建設業の高卒就業者（全国）は、その**約5割弱が3年後**に離職している。

県内建設業就業者数



出典：総務省「国勢調査」

建設業の新規高校卒就業者の3年目までの離職状況



出典：厚生労働省「新規学校卒業就業者・離職状況調査結果」

入職・定着しない原因

<< 若年就業者の主な離職理由 >>

- ①自分がやりたい仕事とは異なる内容だったため
- ②休日・休暇・労働時間の条件が悪かった
- ③賃金の条件が良くなかったため
- ④キャリアアップするため

出典：独立行政法人 労働政策研究・研修機構
第2回若年者の能力開発と職場への定着に関する調査

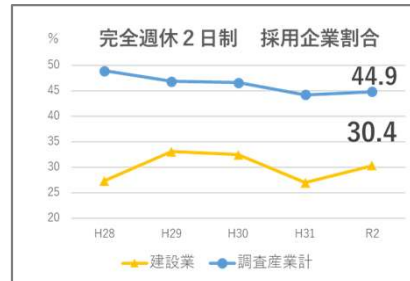
①建設業への理解

建設業への理解不足による
ミスマッチ。

- ・建設業のやりがいや魅力が伝わっていない。
- ・入職前のイメージと実際の業務とのギャップがある。

②休日の状況

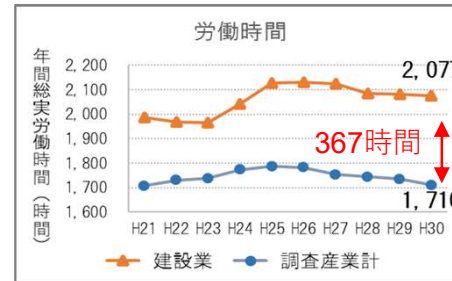
完全週休二日の導入率は
全産業に比べ10%以上低い。



出典：「厚生労働省」就労条件総合調査

②労働時間

県内建設業の年間総実労働時間は全産業に比べ年間300時間以上多い。



出典：三重県「毎月勤労統計調査」

③④技能労働者の処遇

身に着けた能力や経験に応じた処遇が無い。

- ・適切な賃金水準の確保が必要。
- ・キャリアアップをしていく制度が無い。

入職・定着への取組

1. 魅力発信

- ・現場見学会
- ・出前授業
- ・女性技術者と女子学生の交流会など

2. 休日の確保

- ・週休2日制工事の推進

3. 長時間労働是正

(生産性の向上)

- ・施工時期の平準化
- ・ICT活用工事の促進

4. 処遇改善

- ・最新の実勢価格を設計労務単価へ迅速に反映
- ・建設キャリアアップシステム (CCUS) の活用等

1. 魅力発信

魅力発信①

R3年度の取組結果

SNSやHPの活用や、写真展の開催などにより建設業の魅力を発信。

① SNSによる発信

公式 Twitter はじめました

- 道路の整備や利用に関する情報
- 河川や海岸の防災に関する情報
- 住まい・まちづくりに関する情報
- 日々の業務や建設現場の様子 などをご紹介！

三重県 県土整備部 @mie_kendoseibi

フォローはQRコード、またはTwitter内で「三重県県土整備部」を検索！



② HPによる発信

三重県 Mie Prefectural Government

現在位置: トップページ > まちづくり > 公共事業 > 公共事業総合 > 三重県建設産業活性化プラン > 建設業の魅力発信

担当所属: 県庁の組織一覧 > 県土整備部 > 公共事業運営課

三重県建設産業活性化プラン

- 三重県建設産業活性化プラン（平成24年度から平成27年度）
- 新三重県建設産業活性化プラン（平成28年度から令和元年度）
- 第三次三重県建設産業活

建設業の魅力発信

地域の建設業は、県民生活に必要な社会資本の整備・維持修繕はもとより、地域の安全・安心や雇用の確保など、重要な役割を担っています。県内各地で活躍する、地域の建設業の魅力を発信していきます。

地域の安全・安心を担う建設業 vol.1

家畜伝染病発生時の緊急対応

令和3年4月13日に津市で豚熱が発生し、県との防疫協定による要請を受けた三重県建設業協会津支部の建設企業（延べ238人）が昼夜を問わず迅速に対応し4月23日に作業を完了しました。



建設業は、いつ、どこで発生してもおかしくない家畜伝染病や災害発生に迅速に対応し、県民の安全・安心を下支えする役割を担っています。防疫対応に携わった建設企業の皆様にご感謝申し上げます。

建設業が地域の守り手としての役割を将来にわたって担えるよう「第三次三重県建設産業活性化プラン」の取組を推進しています。

1. 魅力発信

魅力発信①

③ 写真展による発信



(県庁県民ホール)



(伊勢庁舎)

展示場所

県施設（庁舎）：県庁、桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、伊賀、尾鷲、熊野

その他：イオン（阿児店）、百五銀行（津駅前支店）

④ 事業効果看板による発信

**防災・減災、国土強靱化のための
5か年加速化対策実施中！**

下水道処理施設の機能停止等を未然に防止するため、地震対策や老朽化対策を進めています

北約流城下水道事務所

南部浄化センター
県民14万人の汚水を処理しています！

地震対策
大規模地震の発生リスクが高まる中で、公衆衛生の強化のため、浄化センター施設の耐震化を実施

あと施工アンカーによる躯体補強
コンクリート梁を増厚により補強

老朽化対策
早期に対策が必要な施設の修繕・更新を集中的に実施

防食塗装で腐食したコンクリートを保護（劣化した部材部）
設備更新で経年劣化による性能低下のリスク軽減（取水配管部）

南海トラフ地震の発生
設備等の老朽化により機能不全の発生



R4年度の進め方

引き続き、SNSの活用や写真展の開催等により幅広く建設業の魅力を発信します。

R3年度の取組結果

建設業界と連携し**現場見学会、出前授業等の開催**により教育機関（県立高校）へ建設業の魅力を発信。

① 現場見学会



土木系で良い会社をみつけられたらいいな。

【開催校】

- ◎普通科
石薬師、紀南
新四日市四郷、
- ◎工業系
津工業、相可、
伊勢工業 等



- ・普通科3校、工業系高校7校で開催。
- ・建設現場の体験で、建設業の魅力を発信！

② 出前授業・就職説明会



現場を見てみたい！

【開催校】

- ◎普通科
新紀南、新亀山、
飯野



- ・地域の主要産業である建設業について学ぶ機会を新たに2校加え3校で開催

1. 魅力発信

魅力発信②

③ 実習授業の充実



はじめから出来上がりまで、見ることが出来て良かった。

【開催校】
◎工業系
嗣久居農林
伊賀白鳳



・工業系高校と建設企業のニーズをマッチングした実習授業の開催

④ 女性技術者交流会



やりがいを感じるのはどんな時ですか？

【開催校】
◎工業系
新四日市工業

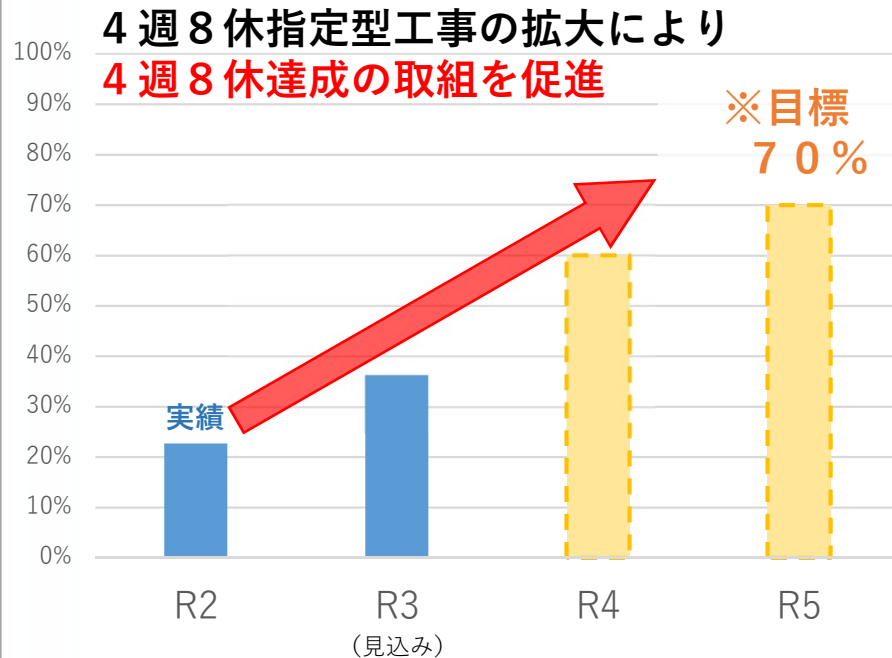


・工業高校の女子学生、建設企業の女性技術者、県職員女性技師によるグループトークを開催。

R4年度の進め方

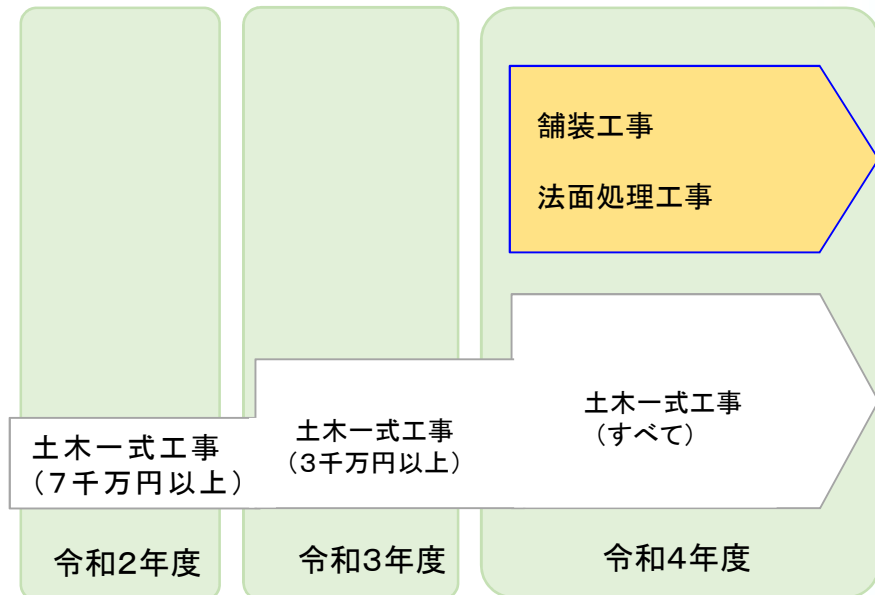
建設業界と連携し出前授業、実習授業等の取組を拡大（私立高校、大学）します。

① 週休二日制工事（4週8休）の達成状況



目標：第3次三重県建設産業活性化プラン
4週8休達成率 = 4週8休達成した工事件数 / 週休二日制工事発注件数

4週8休指定型工事の拡大



② 週休二日制工事の課題

- ① 工事種別にかかわらず4週8休の取組を促進することが必要。
- ② 現場閉所しても他の工事（市町等）で働くなど労働者が休めていない。
- ③ 緊急工事等では週休二日の現場閉所が出来ない。

R4年度の週休二日制工事の進め方

- ① 4週8休指定型工事を土木一式すべて、舗装工事、法面工事へ拡大する。
- ② 県内すべての市町に対して週休二日制工事の導入を促進する。（25市町導入済み）
- ③ 現場閉所を行わなくても労働者が交代で休む「週休二日交代制工事」の導入を検討する。

① ICT活用工事の取組

平成30年度から、建設現場の生産性向上を図るためにICT活用工事を実施

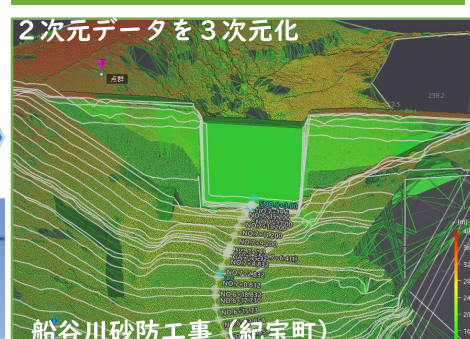
【建設工事の5つのプロセスでICTの活用を促進】

① 3次元起工測量



起工測量の日数を削減

② 3次元設計データの作成



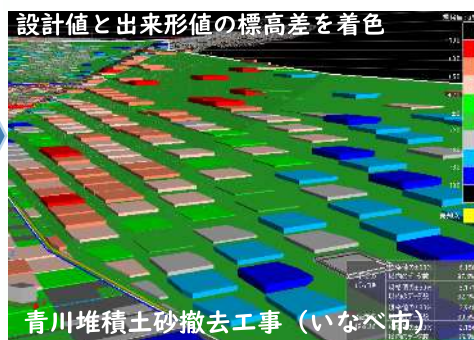
3次元座標を持った設計データ

③ ICT建機による施工



設計データにより施工を自動制御

④ 3次元出来形管理

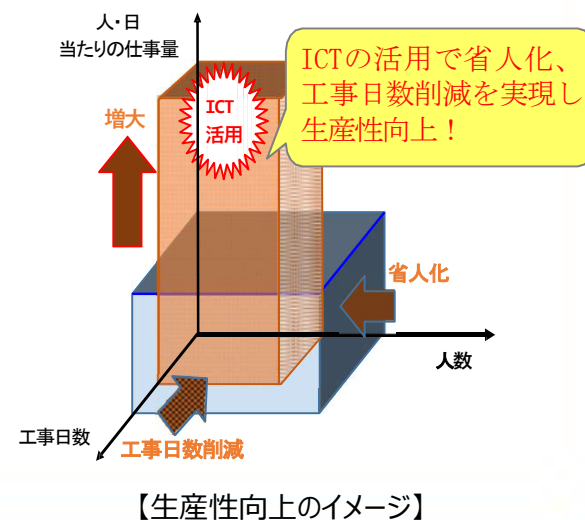


出来形管理資料を自動作成

⑤ 3次元データの納品



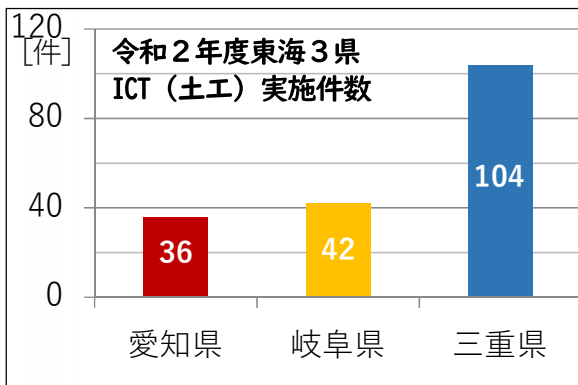
検査の精度向上及び効率化



3. 生産性の向上

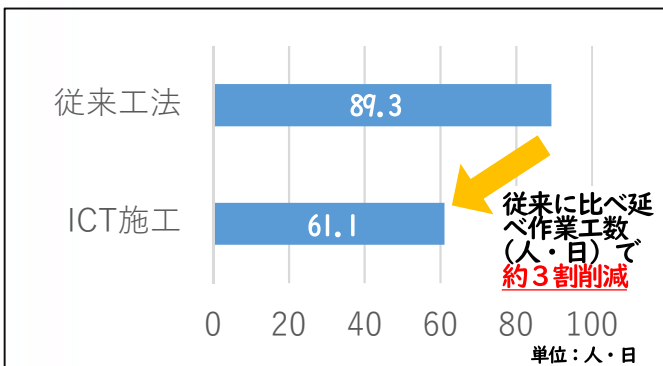
ICT活用工事の促進

② R2年度ICT活用工事（土工）の実績



令和2年度	ICT実施率（※）
三重県	65%
全都道府県・政令市	21%

104件/161件 = 65%
 (※)ICT活用工事の対象として発注された工事の内、ICTを実施した工事の割合



(令和2年度発注工事の受注者アンケート調査より)

③ R3年度ICT対象工事、適用工種の拡大

- 土工の対象工事を拡大
 工事規模 1,000m³以上 ⇒ 500m³以上
- これまでの土工、舗装工に以下の工種を加えて適用工種を拡大
 法面工、地盤改良工、河川浚渫、舗装工（修繕工）、浚渫工（港湾）等

④ ICT活用工事の課題

次の点も踏まえ、引き続きICT実施率の向上に取り組む必要がある。

- ①ICT活用工事を経験した建設企業は、土木一式Aランク業者で約4割に留まっている。
- ②現場条件によっては、県の積算と現場の必要経費に乖離がある。

⑤ ICT活用工事の今後の進め方

- 目標
 令和5年度を目途にICT活用工事(土工)を定着
※ただし、小規模な工事等を除きます。

- 取組方針
 ICT実施率を向上させるため、以下の取組を行う。

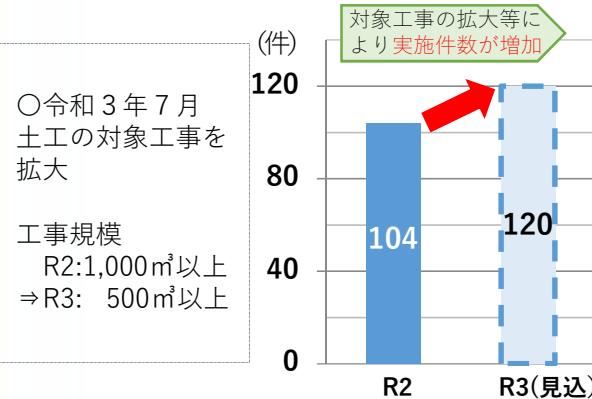
- ①講習会などを通じ、ICT活用による生産性の向上、必要経費の工事価格への反映、工事成績によるインセンティブの付与等について説明し、ICTの活用を促す。
- ②県の積算と現場の必要経費に乖離がある工事の実態を調査・分析し、必要な見直しを行う。

3. 生産性の向上

ICT活用工事の促進

R3年度のICT取組結果

ICT活用工事(土工)実施件数



ICT実施率・企業経験率

	R2	R3 (見込)
ICT(土工) 実施率(※1)	65%	65%
ICT企業 経験率(※2)	44% (93社)	53% (113社)

(※1) ICT活用工事として発注された工事の内、ICTを実施した工事の割合
(※2) 土木一式Aランク業者の内、ICT活用工事を経験した建設企業の割合

講習会の開催

(講習内容)

- ・ICT活用による生産性の向上の効果
- ・必要経費の工事価格への反映
- ・ICT施工による工事成績評価での加点
- ・ICT経験企業による施工例の説明

開催日 令和3年9月13日
建設企業向けにWeb開催
参加者 39社 93名
(内ICT未経験企業 17社)



アンケート調査の実施

令和3年度ICT施工を実施した工事を対象に現場の必要経費についてアンケート調査を実施

R4年度のICT活用工事の進め方

適用工種の拡大

構造物工
(橋脚・橋台)
海上地盤改良工
(床掘工・置換工)

土工、舗装工、法面工、地盤改良工、河川浚渫、舗装工(修繕工)、浚渫工(港湾) など

令和3年度

令和4年度

課題への取組

○取組方針

ICT実施率を向上させるため、以下の取組を行う。

- ①引き続き講習会などを通じ、ICT活用による生産性の向上、必要経費の工事価格への反映、工事成績によるインセンティブの付与等について説明し、ICTの活用を促す。
- ②令和3年度のアンケート調査の結果を踏まえ、現場の必要経費の実態を分析し、必要な見直しを行う。

【働き方改革】

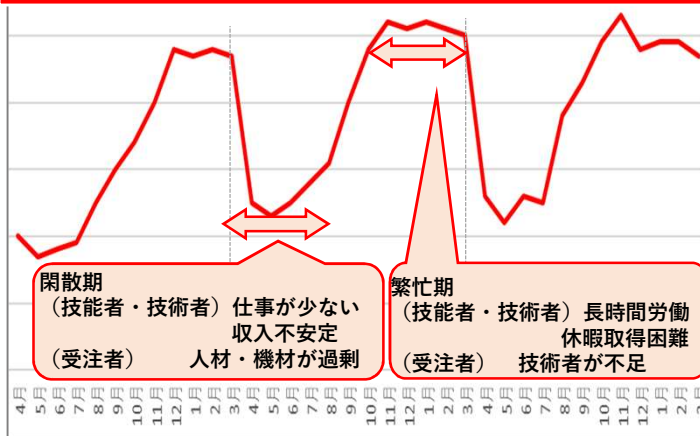
- 建設業が、災害対応、インフラ整備・メンテナンス等の役割を果たし続けるためには、働き方改革の取組を一段と強化することが必要です。
- 働き方改革を加速するため、**施工時期の平準化**により、長時間労働の是正等を図るとともに、限られた人材・資機材の効率的な活用を促進し、「**生産性向上**」に取り組んでいます。

【担い手3法改正】（令和元年6月）

- 債務負担行為や繰越明許費の活用により
「施工時期の平準化に取り組むことは発注者の責務」 となりました。

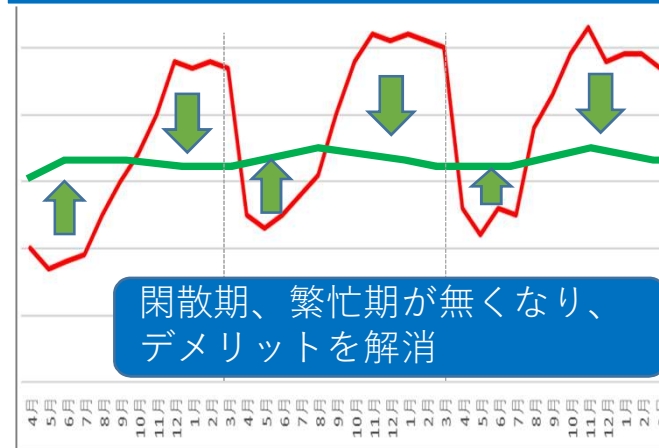
【年間工事量の状況】

現状：時期により**工事量が偏在**



工事量の偏在によるデメリットの解消に取り組む

年間を通じて**工事量を平準化**



平準化により期待される効果

- 労働者（技術者・技能者）の処遇改善（長時間労働の是正、休日の確保等）
- 人材・資機材の実動日数の向上等による経営の健全化等

3. 生産性の向上

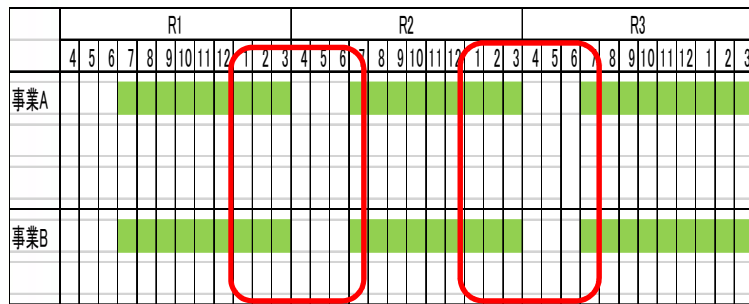
施工時期の平準化

「平準化の促進に向けた取組」 (さ・し・す・せ・そ)

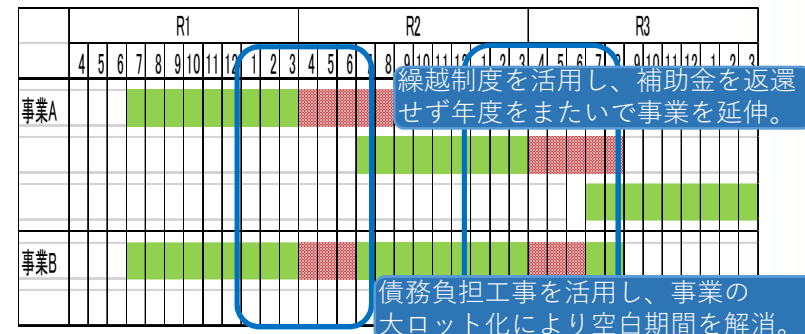
- ㊟ 債務負担行為の活用
- ㊞ 柔軟な工期の設定 (余裕期間制度の活用)
- ㊟ 速やかな繰越手続き
- ㊞ 積算の前倒し
- ㊟ 早期執行のための目標設定

債務負担行為や繰越手続きなどを活用し施工時期の平準化を進めています。

現状：工期が3月末に集中
事業に空白期間が生じている

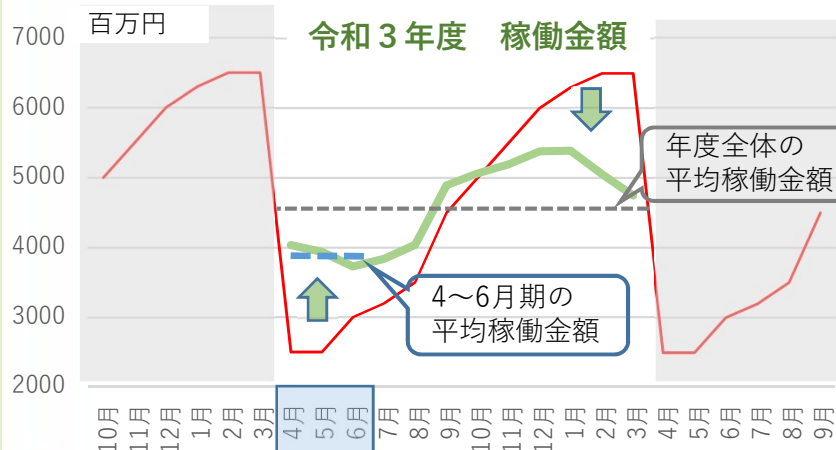


繰越制度、債務負担行為を活用



◎事業の空白期間が無くなり、事業の進捗が図れる。

R3年度の平準化率



平準化率：通常閑散期である4～6月における公共工事の稼働状況

(4～6月期の月あたり平均稼働金額/年度全体の月あたり平均稼働金額) 目標：80%

平準化の促進に向けた取組により令和3年度は平準化率の目標である80%を達成見込み。

R4年度の平準化の進め方

債務負担行為の活用や繰越手続きなどを活用し、引き続き平準化率80%を目標に施工時期の平準化を進めます。

4. 処遇改善

最新の実勢価格を設計労務単価へ迅速に反映

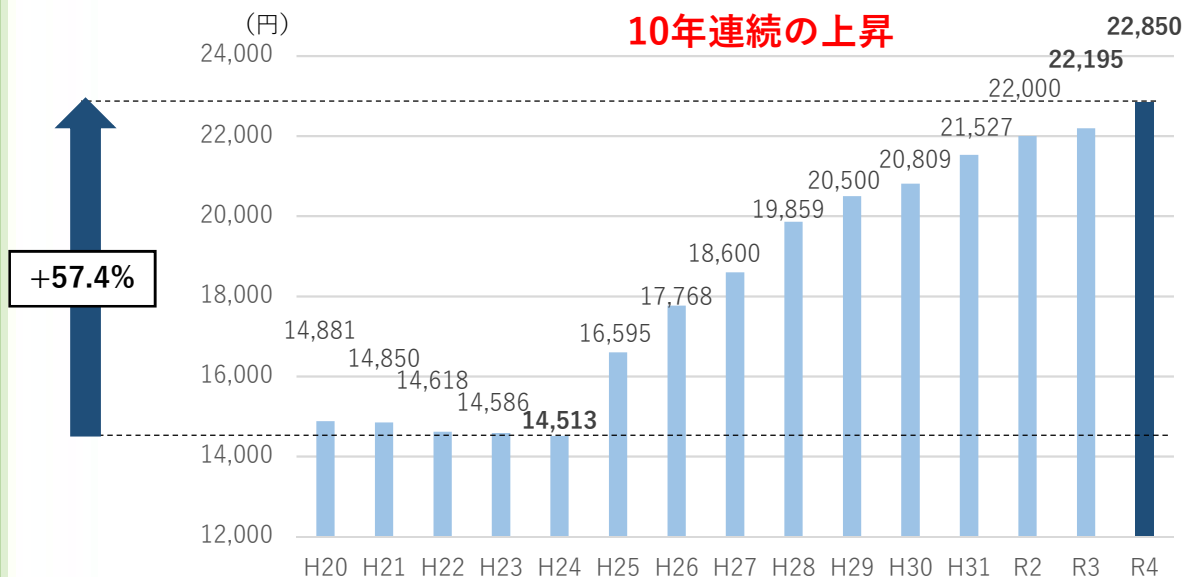
令和4年3月1日から適用する公共工事設計労務単価について

国交省が令和4年3月1日から適用する**最新の実勢価格を反映**した都道府県別の労務単価を公表したことを受け、三重県でも令和4年3月1日から新たな労務単価を適用しています。

労務単価（主要11職種平均）

令和4年3月1日適用 **22,850円**（R3比：+3.0%，H24比：+57.4%）

主要11職種平均（三重県）



職種	R3.3 (円)	R4.3 (円)	対前年度比
特殊作業員	22,700	23,100	+1.8%
普通作業員	19,600	19,900	+1.5%
軽作業員	15,000	15,000	+0.0%
とび工	27,800	28,000	+0.7%
鉄筋工	25,000	26,300	+5.2%
運転手（特殊）	22,900	23,800	+3.9%
運転手（一般）	20,300	21,300	+4.9%
型枠工	25,800	26,000	+0.8%
大工	26,800	28,200	+5.2%
左官	24,400	25,400	+4.1%
交通誘導警備員 (A、Bの平均)	13,850	14,350	+3.6%
平均	22,195	22,850	+3.0%

4. 処遇改善

建設キャリアアップシステム (CCUS) の活用

① 建設キャリアアップシステムとは

業界統一のルールで、就業履歴や保有資格などをICカードを通じ蓄積することで、**技能者の処遇改善**や**技能の研鑽**を図ることを目指すシステムです。

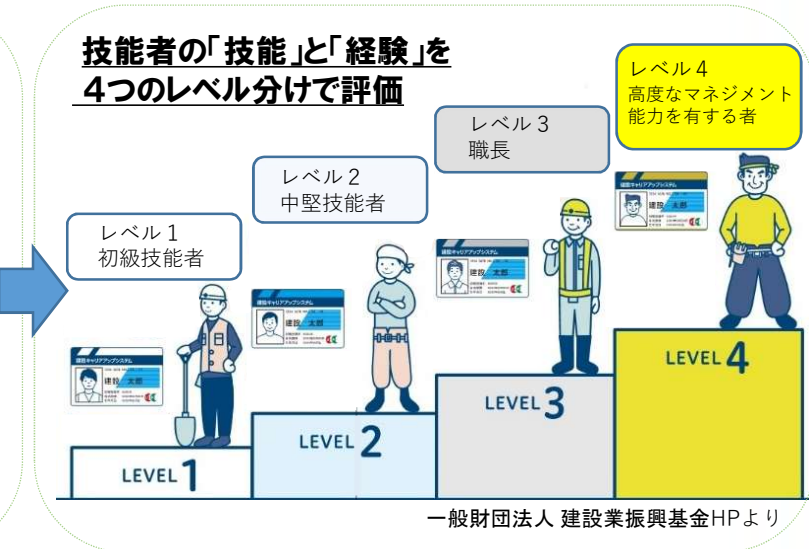
① 事業者・技能者情報の登録



② カード交付、現場での読取



③ レベル分けの評価



② 建設キャリアアップシステム導入のメリット

技能者のメリット



- ・仕事の記録を貯めて実力を証明
- ・技能者が適正に評価されて賃金アップ↑
- ・若い人たちは明確な目標でモチベーションアップ↑

事業者のメリット

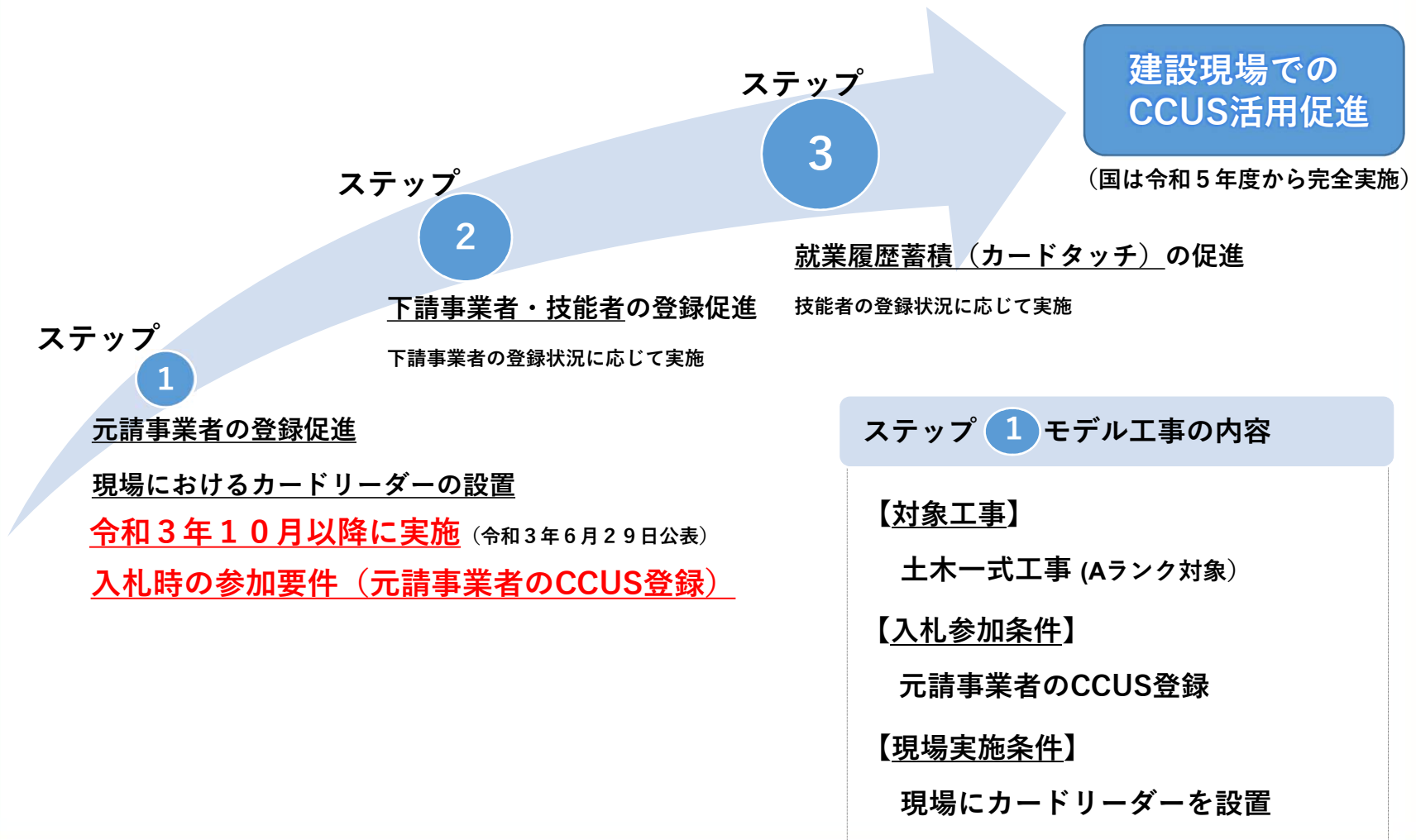


- ・処遇改善により、技能者の入職・定着が進み業界全体の担い手確保が進む
- ・施工体制台帳や社会保険加入状況などの情報を容易に管理することが可能

③ 建設キャリアアップシステムの活用に向けて

CCUS活用促進に向けた取組

本県では、**モデル工事**を**段階的**に実施しCCUS活用を促進します。

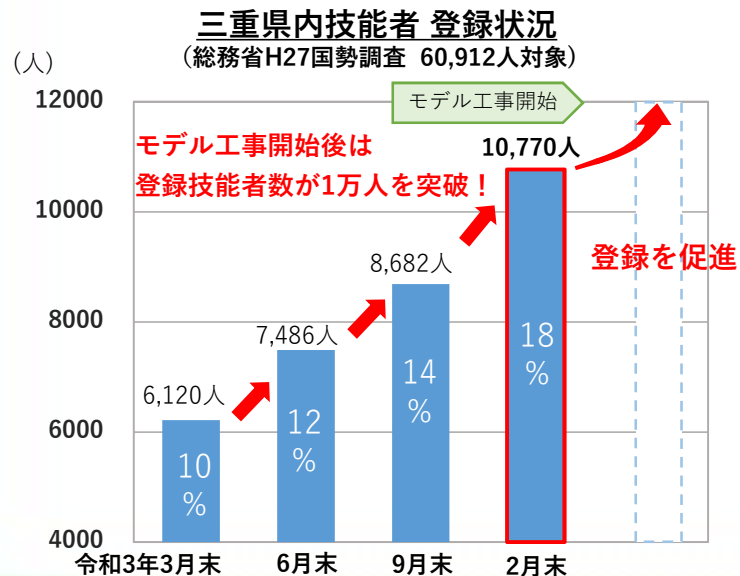
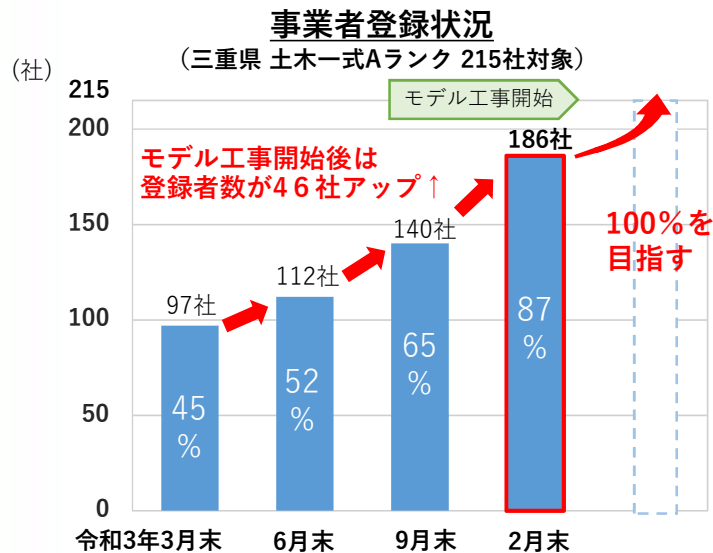


4. 処遇改善

建設キャリアアップシステム (CCUS) の活用

R3年度の取組結果

ステップ ① モデル工事を各建設事務所において発注 (15件公告中を含む)



- 登録事業者数がアップ
土木一式Aランク
46社 増加
- 登録技能者数がアップ
1万人を突破



【事業者登録率】

	令和3年9月末	令和4年2月末
全国	21.4%	24.6%
三重県	20.1%	23.7%



R4年度の進め方

県内建設業者の『事業者登録の促進』を図るため、ステップ ① モデル工事を拡大します。

【拡大内容】

対象業種：建築一式Aランクを追加
ランク：土木一式Bランクに拡大
発注件数：50件程度に増加

建設業の担い手確保の推進における課題と今後の進め方について

① 現状と課題

県内高校から県内建設業への就職者数は、令和3年3月卒業生で237人となっており、近年200人前後で推移しています。

建設業への就職者数を増大させていくには、現在行っている「建設業の魅力発信」や「休日の確保」、「生産性向上」、「処遇改善」に関する取組が、地域の建設業への入職者にどのように評価をされ、就職に繋がっているかを分析・検証しながら進めていく必要があります。

② 今後の進め方

学校基本調査などの統計資料の活用や建設企業及び入職者へのアンケート等を実施することにより、地域の建設業への就職者数等を把握しながら各取組の効果を分析・検証し、より入職に繋がるような取組としていきます。

担い手確保支援チームの設置

建設業の魅力発信の取組を加速させるため、県土整備部を横断した中堅・若手職員で構成する「**担い手確保支援チーム**」を設置します。

◆担い手確保支援チーム設置の背景

県内建設業は就業人口が年々減少しており、とりわけ若手入職者が減少しています。また、全体の約3割が60歳以上であり今後10年で大半が引退するという危機的な状況で、建設業の**担い手確保は待ったなし**です。

担い手確保（若者の入職促進）のためには、昔のままの建設業に対するイメージ（3K、きつい、汚い、危険）を刷新し、今の建設業の姿や向かっている方向（新3K、給与、休暇、希望）などの情報を提供するとともに、普段の生活の中では語られる機会の少ない建設業のやりがいや魅力をしっかりと伝え、**若者の建設業に対する理解の醸成を推し進める必要**があります。

そこで、ターゲットとなる若者に年齢的に近い**中堅・若手職員**で構成する「**担い手確保支援チーム**」を設置し魅力発信を加速させます。

◆チームの構成員

公共事業運営課公共事業運営班長（リーダー）
技術管理課技術管理・DX班長（サブリーダー）
建設業課入札制度班長（サブリーダー）

県土整備部各課の中堅・若手職員

◆具体取組

- ① 現場見学会・出前授業等を業界と連携し開催
- ② 女性の活躍を後押しするため、業界と連携し、女子学生との意見交換や女性技術者交流会を開催
- ③ SNSの活用、事業効果看板による発信、写真展の開催等